

SDGs 発信の先頭に

蓼科・バラクライングリッシュガーデン

英国市場協議会（東京都、鈴木善久会長）の環境セミナーは19日、茅野市北山の蓼科高原バラクライングリッシュガーデンで開いた。会員ら14人が参加し、同ガーデンの山田裕人代表の講演「英国式庭園は地球を救う」や、オックスフォード大学付属植物園のビデオセミナー「日本の絶滅樹木の保全活動」、ガーデン見学などを通じ、植物の多様性や生態系の保全、SDGsへの理解を深めた。

（武井葉子）

英国市場協が 環境セミナー

同会は日英間の健全・安定的な経済関係の発展のために英国商品のPR、展示会等への助言、協力、情報の交換など事業を行う。

講演で山田代表は、「大それたタイトルだが少しで心に留めてもらえたら」と前置き。昨春ロンドンを訪れ鑑賞した、英国王立園芸協会が開催する園芸界の一大イベント



雨も風情を醸すイングリッシュガーデンを見学する関係者

ト、チェルシーフラワーショー（ロンドン）の様子を映像を用いて紹介。さまざまな部門がある展示ガーデンのコンペティションで最高金賞に選ばれた作品が、ビバーが木を集めて築いたダムを再現した自然の庭だったことに触れ

る」と指摘した。質疑応答も活発だった。

「自然が大切だ」というメッセージ。人間は自然の一部という考え方が大きくなっている」と指摘した。質疑応答も活発だった。

同協議会がバラクラで環境セミナーを開くのは初。あいさつで鈴木会長は「生態系の保存を大きなテーマとするバラクラの取り組みは、これからのSDGsの新しい流れを世界に発信していく先頭になると思う」と期待した。